

実績紹介フォーム

1. 利用情報

コンテンツを利用した教育機関名(学校名・学部学科等)	大阪情報専門学校
コンテンツを利用したコース名・講座名等	情報セキュリティ講座
利用教育コンテンツ名	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
教育コンテンツの利用形態 (□にチェックし、必要事項にご記入ください)	1. 利用したコンテンツ
	<input type="checkbox"/> ①シラバス
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド
	<input type="checkbox"/> ③講義ノート
	<input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題
	<input type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	<input type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例
	<input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド
	<input type="checkbox"/> ⑧受講レポート
	<input type="checkbox"/> ⑨ソースコード
	2. コンテンツの利用方法について
	(1) 上記コンテンツで、②講義スライドおよび③講義ノートを利用された場合
	<input type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てをそのまま利用
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 教育コンテンツの一部をそのまま利用 (利用範囲) 5章から15章
	<input type="checkbox"/> ③教育コンテンツを改変して利用 (改変範囲)
(2) 上記コンテンツで、④演習課題・⑤演習用各種設計書・⑨ソースコードを利用された場合	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てをそのまま利用	
<input type="checkbox"/> 2. 教育コンテンツの一部をそのまま利用 (利用範囲)	
<input type="checkbox"/> 3. 教育コンテンツを改変して利用 (改変範囲)	
(3) 上記コンテンツで⑦ティーチングガイドを利用された場合	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てあるいは一部をそのまま利用	
<input type="checkbox"/> 2. 授業の内容および進行に合わせ、追記・訂正等改変して利用 (改変内容)	

講座の構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義と演習・実習の時間配分などを記す			
	単元と時間配分(1コマ= 90 分で実施)	演習・実習	実施担当講師
1	簡単なネットワークプログラミングの作成	JAVAプログラミング	高島
2	ネットワークの基本的な構成、ネットワークの脆弱性とリスク		松本
3	情報セキュリティにおけるファイアウォールの位置づけと機能		高島
4	ネットワークセキュリティを構成する要素技術		松本
5	無線LAN環境(規格、暗号化、認証、その他の機能など)		高島
6	Webアプリケーションセキュリティ		松本
7	Web アプリケーションに対する代表的な攻撃、SQLインジェクション攻撃	AppGoat演習	高島
8	クロスサイト・スクリプティング攻撃、Webアプリケーション開発時の対策	AppGoat演習	松本
9	バッファオーバーフローによるデータ破壊の危険性	AppGoat演習	高島
10	リソースリークによるサービス機能低下の危険性	AppGoat演習	松本
11	情報セキュリティにおけるリスクアセスメントとリスク対応	グループ演習	高島

コンテンツ利用に至る背景	シラバスや演習課題まで充実していて利用し易いと感じたから。IPAが信頼できる団体である。
コンテンツ利用の狙い、目的・目標	既存のセキュリティの授業は座学のみであるが、本コンテンツは演習も付いているので、情報セキュリティに対する知識が深まることを期待した。
コンテンツ利用にあたっての課題・懸念	当校では、プログラミング言語としてはjavaを使用しているが、AppGoat2に関してはC言語の演習になっているので、事前にC言語を学習させる必要がある。
講座の位置づけ 既存講座との関係	既存の講座でも学習内容が類似するものがあるが、知識の定着と演習による新たな理解の深まりを狙っている。
履修前提条件	今回は、授業速度を速めている為、一通りセキュリティの授業を終えた学生を対象とした。しかし、C言語を学習済みにはしていなかった。
授業準備と実施の体制	教員2名、交互に対応した。TAは特に付けなかった。準備期間としては、教材が完備されているので、フリップ内容を予習する程度で済んだ。

成績評価の方法	今回は、希望者のみの特別講座として講義した為、成績の評価はしていない。
講座ならびに演習・実習の具体的な進め方	プロジェクトにフリップを提示しながら講義した。実習に関しても講師の操作をプロジェクトに写し、解説しながら実習した。

2. 講座実施後の情報

受講者の声 (受講目的、修得目標)	受講生の声ではないが、当初の目標としては、「セキュリティの知識を深めてセキュリティキャンプに参加しよう」ということで受講者を募集した。
受講者の感想 (本講座で得られたもの)	セキュリティの授業は既に履修済みだったが、理解が深まった。
教員の評価	フリップや演習資料を準備されており、授業準備や予習時間が短縮できて良かった。また、演習環境を整えるのが難しいセキュリティだが、AppGoatで簡単に演習できてよかった。演習をしながらの講座だったので、学生も楽しく受講出来た。
今後の展望 (継続に向けた課題)	既存の科目との関連性を精査し、また対象学生の妥当性を検証し、可能であれば当教材を継続して活用していきたい。

その他(ご意見等)	AppGoat2について。現状の内容(機能)をそのままの移植は難しいと思われませんが、AppGoat 2のJAVA版があれば有りがたいです。
-----------	--